

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		百貨店（売場主任）	・6月末もクリアランスセールが好調であるため、今後も売上が上向く。
		百貨店（営業担当）	・大型リニューアルを控えているため、客の購買意欲が上昇する。
		スーパー（店長）	・飲料やビール、Tシャツ、ショートパンツ、帽子、日傘等の売行きが良く、今後も売上の底上げができる。
		家電量販店（店員）	・商品単価の低下が続いていたが、それに伴い大型商品の購入が活発になっている。さらに猛暑が予想されているため、エアコン商戦もかなり期待できる。
		家電量販店（企画担当）	・家電関係は薄型テレビを中心に売れており、全体的に地上デジタル放送への切り替えが進んでいる。
		乗用車販売店（管理担当）	・新型車の販売効果が出てくるため、上向きである。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・7月の燃料油の仕入価格は値上げすると予想されるが、今夏は厳しい暑さが予想され、また顧客情報では夏の賞与の予想支給額も悪くないと耳にするので、消費のマインドは上がる。
		観光型ホテル（営業担当）	・宿泊の予約は徐々に増えている。旅行代理店からの予約は減少済みであるが、インターネット等からの直接予約が目立っている。
		テーマパーク（職員）	・既に夏休みの動きが出てきた。夏休みは繁忙期に突入し、今夏は宿泊施設と室内ウォーターパーク施設との相乗効果が期待できる。
	ゴルフ場（従業員）	・7、8月は昨年を上回る予約が入っており、今後は好調に推移する。	
	住宅販売会社（従業員）	・中心部の土地の動きと固有地の売却が進んでおり、それに付随してマンション等建物が建築され、景気は良くなる。	
	変わらない	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・新茶の売上が年々減少している。折込チラシにて販促はしているが、住宅地にある当店周辺は若い人が増え、ペットボトルのお茶の購入が多い。
		百貨店（業務担当）	・夏物クリアランス中に、年金問題をはじめ、参議院選挙があったりと、将来への不安をあおるニュースが多い。中元のギフト商戦にも影響が出ないか心配である。ガソリン代の値上げ等の報道や6月からの住民税の調整増額もあり、先行きに明るさは感じない。
		百貨店（売場担当）	・客の年齢層が高く、若干買い控えが見られる。
		スーパー（店長）	・ギフトの動きが鈍く、衣料品も厳しい状況が続いている。食料品は特に鮮魚の動きがずっと悪く、3か月前から前年比87%で推移しており、魚離れが進んでいる。今後もこの状況が続く。
		スーパー（企画担当）	・大型店に客が流れており、涼味商品や日用雑貨等の主力夏物商材が不調である。野菜相場安や養殖魚相場高の影響、偽装ミンチ事件による精肉加工品の風評の影響等も考えられ苦戦状態が続く。
		衣料品専門店（店長）	・農繁期にあたり客足が伸びないと思っていたが、ある程度の来客数は維持しており、この状況が続く。
		家電量販店（店員）	・非常に暑くなり、エアコンの動きが良い反面、パソコン等OA機器の売上が落ち込んでいる。今後もこの状況が続く。
		乗用車販売店（従業員）	・車をぶつけても修理せずにそのまま乗っていたり、古くてもまだ調子が良いからと買い替えない客が多い。
高級レストラン（経営者）		・予約状況を見る限り、客の動きは鈍く、良くはならない。	
高級レストラン（専務）		・売上や来客数をみると、単価は若干上がるが、増税や年金等いろいろな不安要素が重なり、経営状態は良くならない。	
観光型ホテル（経営者）	・2、3か月先の予約状況を見ると、昨年と比べてあまり変わらない。		
観光型ホテル（スタッフ）	・7月までは予約状況は良いが、9月以降はまだ不透明である。		
都市型ホテル（副支配人）	・客は周辺ホテルの単価をいろいろ調査した上で予約をする傾向があり、今後も厳しい状況が続く。		

	旅行代理店（従業員）	・早い段階で近場の1泊・日帰り旅行の予約は増えているが、ヨーロッパや北海道などの方面は前年割れとなっている。参議院選挙が1週間ずれた影響で、団体予約の取り消しが出ている。	
	通信会社（業務担当）	・新商品のインパクトがあまりなく、販売数は大きく伸びない。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・郊外の大型店が進出してくるため、商店街は客の集まりが悪くなる。	
	商店街（代表者）	・税金の負担増等により、消費者の購買意欲は低下する。	
	商店街（代表者）	・消費者にとって不安材料が多いため、引き続き購買意欲は低下する。	
	一般小売店〔青果〕（店長）	・青果業は地元の野菜がなくなり、95%くらいが県外のものになる。コストが高くなるため需要が減り、販売量も減るのでかなり厳しい状況となる。	
	スーパー（店長）	・現状来客数が伸びておらず、競合店の出店計画が相次いでおり、今後も良くなる見通しはない。	
	スーパー（店長）	・また競合店の出店が予定されており、来客数の減少が見込まれる。	
	スーパー（総務担当）	・衣料品、住居用品については相変わらず前年割れで推移している。売上を伸ばしていた食品部門もかなり苦戦しており、厳しい状況である。大型チラシ投入の効果もあまり見られない。	
	スーパー（総務担当）	・実質の増税や年金問題等いろいろ不安事項を抱えているため、客の財布のひもが固くなる。	
	スーパー（経理担当）	・住民税の増加とともに消費意欲も減退する。また、新規出店計画が多く、競争が激しさを増す。	
	コンビニ（エリア担当）	・長期天気予報によれば天候が良く、飲料、アイスを中心にした夏物商品の売行きが好調に推移する。しかし市県民税を始めとする増税の影響から客単価が下がる可能性があるの、楽観はできない。	
	コンビニ（販売促進担当）	・食品のマヨネーズ、小麦粉等、原材料価格が上がってきており厳しい状況である。クリスマスケーキについても、資材関係で値上げの要請が出ている。	
	衣料品専門店	・今夏は猛暑と予報されており、客層が年配客なので、外出が控えられ、販売量が落ちる。	
	乗用車販売店（販売担当）	・客が高額商品の購入にかなり慎重になっている。減税がなくなったり年金問題等により景気が良くなっている実感はない。	
	住関連専門店（経営者）	・石油製品の値上がり仕入れ、経費全般に影響しており、置き家具業界は依然として厳しい。	
住関連専門店（店長）	・ガソリンの値上げ、住民税の値上げ、定率減税の廃止など出費がかさんでいるため、消費意欲は落ちていく。		
高級レストラン（経営者）	・今後の予約状況を見ると、あまり良くない。		
	悪くなる		
企業動向関連	良くなる	-	
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・原料に関しての不安要素はないが、唯一バイオエタノール関連に関して飼料の値上げ等の影響がある。
		一般機械器具製造業（経営者）	・引き合いの様子から数か月後は回復の兆しがある。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体、自動車の仕事量は確実にとれるため、今より悪くなることはない。
		その他サービス業〔物産リース〕（従業員）	・中小零細企業にとって金利の上昇傾向などの今後の懸念材料もあるが、現状の底堅い引き合い案件の状況から、堅調に推移していく。
変わらない		繊維工業（営業担当）	・現状維持が精一杯である。猛暑によりクーラー代等の電気代が掛かり、経費がかさむ。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・原材料、ガスの値上げ等により厳しい状況が続いている。
		鉄鋼業（経営者）	・九州地区の建設需要は、自動車産業・半導体・造船などの新設・拡張計画にけん引されている。その他、物流センターやビジネスホテル・共同住宅等、今後も堅調になる見込みであり、建材の需要は引き続き高く、需給がタイトな状態が続く。
		金属製品製造業（企画担当）	・受注量・販売量共に改善の兆しは見られない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・電子部品関連、精密機械部品共に不透明感があるが、全般的な動きとしてはある程度の受注確保はできる。

		輸送業（従業員）	・問屋は在庫を抱えようとせず、必要な分、売れる分だけを取っていく状態が続いており、なかなか景気は良くなりません。	
		通信業	・しばらくは、発注量及び価格共に変化する事もなく推移する。	
	やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・飼料価格は値上がりすると補てん金が出ていたが、今後補てん金が少なくなるため、状況は更に悪化していく。	
		輸送業（従業員）	・荷動きが悪い状態が続いており、軽油価格の再値上がりと合わせて先行きは不安である。	
		広告代理店（従業員）	・流通部門で小規模なスーパーが倒産した。加えて通販関連の出稿が減少したままで回復の気配がない。地場の小売店からの発注もだんだん減少しており、先行きが見えない状態である。今後の発注も鈍いようで当分低迷する。	
	悪くなる	建設業（従業員）	・利益確保が非常に難しく、競争相手も多く受注に結び付けるのも困難である。	
雇用 関連	良くなる	民間職業紹介機関（職員）	・若年層の求人は引き続き順調である。また今年初旬から中堅～管理者クラスの求人が増加し、特にマネジメントスキルを持つ人材は、求人の有無に限らず希望の業界、企業への採用確率が高くなっている。	
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・企業が引き続き採用枠を増やせば、おのずと売上拡大と成長につながり、結果として景気のけん引役になりえる。	
		人材派遣会社（社員）	・雇用の安定が見込まれる。	
	変わらない	職業安定所（職員）	・新規求職者数に大きな動きはなく、この状態が続く。求人数についても大きな動きは見られないが、派遣会社からの求人は減少傾向にある。	
		職業安定所（職員）	・新規学卒求人受理説明会への出席企業数がほぼ前年並みとなり、収益の回復、拡大ほどには雇用拡大は望めない。	
		学校〔大学〕（就職担当者） 学校〔専門学校〕（就職担当）	・求人意欲は、秋採用・通年採用というスタンスで、継続していく。 ・採用動向にやや落ち着き感が見受けられる。	
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・6月がかなり厳しいので7、8月で回復する見通しがつかない。特にお盆を挟んだ8月のアルバイト・パート求人は需要が低迷する。	
		民間職業紹介機関（社員）	・客からのまとまった派遣依頼が減少し、散発的な案件が多く、競争が激化している。九州の派遣稼働者数は昨年同期以降、昨年並みかそれ以下で推移しており、当面、大きな派遣情報案件が見込めない。	
		悪くなる	-	-